

天国に到達

噴き出す矛盾に反響を加え打倒する 実力部隊の強化を

日刊 動労千葉

86.12.8

No. 2426

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

11.30 動労総連合結成大会 動労千葉 中野香月会長

この一年間、すさまじいばかりの分割・民営化攻撃の中で、国鉄労働者の闘いの歴史は三つのポイントがあった。

動労千葉の二波のストライキ、国労の修善寺臨大、本日の動労総連合結成の闘いである。ここに結集した仲間たちがすべての闘いを領導し、貫徹してきた。この隊列を守り、強化・発展させなければならない。



国鉄労働者が自ら立て闘うことによるこそ「分割・民営化」の矛盾は暴きだされ、勝利の展望が切り拓かれる。――動労千葉 中野香月会長

働者の組織的な闘いに転化する実力部隊が存在しなければ敵の攻撃がまかりとおってしまふ。

「新会社」は天国なのか

いま、国鉄職場では、何か「新会社」が天国みたいに言われ、動労千葉に、国労にいたら「新会社」に行けなと吹聴している輩がいる。

いったい「新会社」とは何だ。ようやく保ってきた労働条件は破壊され、賃金・退職金・年金はどうなるかもわからない会社へ行けることが天国のように言い、「第二次労使共同宣言」を結び、ストライキはやらない。会社が採算がとれるまで何んでも言うことを聞くというのだ。まさに地獄ではないか。

国鉄労働者の魂は復活する

いま、問われていることは、国労の旗を守る闘いと、動労総連合の闘いを結実させること。必ず、国鉄労働者の戦闘的魂は復活する。その仲間たちが動労総連合、国労共闘、交流会議の仲間の旗のもとに合流してくる。このために、この実力部隊の隊列を断固として守り、強化・発展させなければならない。

動労総連合は、燎原の火のごとく全国へ拡大し、中曾根の攻撃に対し痛烈な回答を与えることになるだろう。

間もなく矛盾が噴き出す

国鉄関連法案が、二八日、参院で強行採決され、いたるところで、これで終り、四月一日へこうだと吹聴されている。しかし、何か結着がついたのか、断じてそうではない。

国鉄資産のぶんどり、十万人の首切り、国鉄労働運動の完膚なきまで解体つくす中曾根の「戦後政治の総決算」をかけた攻撃である以上、われわれは真向から受けとめ、これを粉碎しなければならぬ。たしかに法案は通った。が、事態は何かひとつ解決していない。これからが、本当の闘いがはじまる。

間もなく設立委員会による差別・選別の攻撃がはじまる。この中で、ありとあらゆる矛盾が噴き出してくる。それを労働